御幸山公園・湯本駅前緑地

整　備　基　本　計　画

令和８年１１月

い　わ　き　市



はじめに

本計画の目的

常磐地区は、湯本温泉を中心とした歴史や文化、石炭産業の発展とともに歩みを重ね、温泉観光地として多くの人々に親しまれてきました。しかし、人口減少や観光客の減少、商業活力の低下などに加え、土地利用や交通、公共施設の更新といった様々な課題が顕在化し、地区全体の魅力や賑わいの再生が求められています。

こうした課題に対応するため、本市では、地域や民間事業者と連携しながら「常磐地区市街地再生整備基本方針」「常磐地区市街地再生整備基本計画」及び「新・いわき湯本温泉まちづくりビジョンブック」に基づき、湯本駅前を中心とした市街地再生に取り組んでいます。

これらの取組みでは、地域の魅力を高めるとともに、地区全体の回遊性や交流を促進し、持続的な賑わいの創出を目指しています。

「常磐地区市街地再生整備基本計画」において９つの取組みのひとつである御幸山公園及び湯本駅前緑地は、温泉観光地の玄関口として重要な役割を担う空間であり、市街地再生を支える主要な拠点の一つです。

温泉や炭鉱、フラなどの地域資源を活かし、人々が集い、憩い、交流できる魅力ある公園として再整備することで、交流拠点施設や温泉街との回遊性を高め、地区全体の活力向上につなげていくことが期待されています。

本計画は、これら上位計画やビジョンブックとの整合を図りながら、住民参加型ワークショップの実施等による地域の皆様の意見を反映し、公園の再整備に向けた基本的な考え方や整備方針を示した計画としています。

市民・来訪者・地域事業者などが親しみ、将来にわたり愛される公園づくりを目指すものです。

事業の経緯

いわき市策定
令和３年５月
常磐地区市街地再生整備基本方針

５つの方針
①多世代が集う交流拠点の整備
②温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備
③商店会のにぎわい再生
④温泉街の滞留拠点の形成
⑤歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備

いわき市策定
令和４年10月
常磐地区市街地再生整備基本計画

９つの取組み
①交流拠点施設・駐車場整備事業
②湯本駅前街区再編・駅前交通広場整備事業
③市営住宅天王崎団地跡地利活用事業
④公的不動産利活用事業
⑤御幸山公園・湯本駅前緑地整備事業
⑥にぎわい再生事業
⑦観光地域づくり事業
⑧滞留拠点整備事業
⑨魅力ある街並み空間整備事業



令和７年11月～12月
住民参加型ワークショップ





いわき湯本温泉ブランド化作戦会議制作
令和５年４月
新・いわき湯本温泉まちづくりビジョンブック

いわき市策定
令和８年11月
御幸山公園・湯本駅前緑地整備基本計画

・ビジョンブックは、地域や民間、行政などがまちづくりの考え方を共有し、まちの魅力を育てていくために作成していただいた「構想」です。
・温泉観光地としての「まちのあり方」「まちをデザインする考え方」について「多くの分野に跨る専門家」と「地域の皆さん」が中心となって作成したものです。
・事業化に向けては、行政を含めた各事業がビジョンブックを参考としながら、安全性等を調査し、実現可能な整備計画を立案していきます。

上位計画等の詳細はこちら▶

御幸山公園・湯本駅前緑地の現状

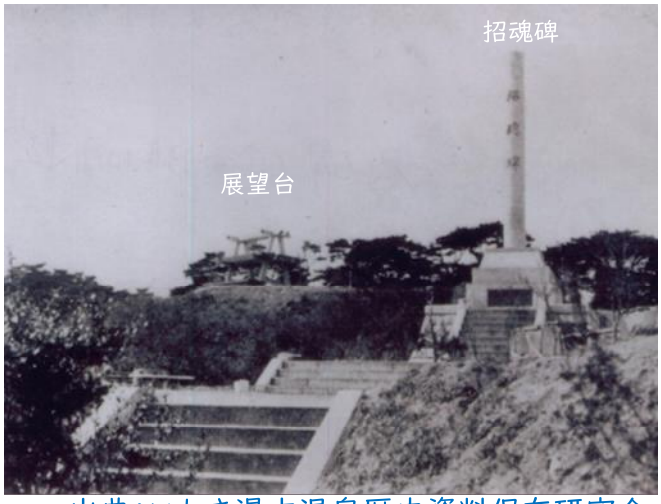
御幸山公園・湯本駅前緑地は、JR湯本駅の西側に位置しており、昭和30年代に湯本駅前区画整理事業の一環として整備され、これまで湯本駅周辺の住民にとって、憩いの場、集いの場となっていました。

航空写真



出典：Googl Eearth

昭和40年当時の御幸山公園



出典：いわき湯本温泉歴史資料保存研究会

しかし、現在は、木々が高く成長し、日中でも薄暗くうっそうとした状態となっており、法面や山肌に自生している樹木は老木や病気となった樹木が多い状況となっています。

トイレ・すべり台等の施設等の構造物は老朽化が進行している状態となっています。









目指す姿

常磐地区市街地再生整備基本計画

JR湯本駅前の公共空間である御幸山公園及び湯本駅前緑地については、交流拠点施設との連続性を意識しながら、温泉観光地の玄関口として、来訪者の心をつかむシンボル性の高い空間として整備を行い、イベント開催など魅力ある敷地活用につなげることで、まちなかの集客性や回遊性を高めます。



	整備コンセプト（案）
御幸山公園	**整備の方向性** ・駅前緑地と一体的な“人のたまり場”とする ・湯本駅正面に臨むシンボル性を高める ・湯本駅や交流拠点を臨む眺望性を高める ・まち歩き（回遊性）の機能を高める **↓検討のイメージ** ・階段を上がった駅正面」敷地における交流拠点を臨む展望広場の整備 ・街灯 ・温泉を感じる修景等 ・散策路の環境整備（園路補修、サイン、剪定、伐採等） ・意匠性の高い統一したデザイン、ユニバーサルデザイン

	整備コンセプト（案）
駅前緑地	**整備の方向性** ・交流拠点に隣接する“人のたまり場”の１つとする ・周辺の小売店や飲食店、旅館利用客の寛ぎの場とする ・御幸山公園の連携とエントランス機能を高める **↓検討のイメージ** ・居心地のよい「Akiち広場」 （温泉モニュメントの取り扱いも検討） ・ゲートサイン、案内板、湯壺、街灯 ・周辺道路舗装の高質化 ・意匠性の高い統一したデザイン、ユニバーサルデザイン

回遊性のイメージ







このスケッチは、これまで検討されてきたイメージ図を参考に、交流拠点施設や広場、立体駐車場をイメージするために作成したものです。周辺の建物を含め、確定したものではありません。事業者の提案により変更されます。

新・いわき湯本温泉まちづくりビジョンブック



まちを見下ろしながら、静かに過ごす。ほんのりと灯りがともる夜の小径は、湯本の夜景スポット

シンプルなデザインのベンチと控えめな明るさの街灯に照らされたみゆき山の小径には、湯本の静かな夜の時間が流れて――。
ひとり静かに思案にふけるもよし、ふたりの距離をそっと近づけるもよし。
最小限のデザインでつくられた余白のある場所は、使うひとの想像力を豊かにします。

季節の移り変わりを感じられるまちなかの自然散策路

山桜、紫陽花、紅葉、雪柳――駅前にこんなに豊かな自然があるなんて。
みゆき山の頂上から温泉神社の方へと抜ける小径は、四季折々の植物が楽しめる、自然豊かな美しい散策路です。トレーニング・トレイルになるかもしれません。





ピクニックや盆踊り…なんでもどうぞ、開放的な芝生広場

シンボリックな階段を登れば、空と緑に囲われた芝生広場が広がります。
元気に遊びまわる子供たち、温泉後に夕涼みをする老夫婦、放課後に立ち寄った高校生ー　アクティブにも静かにも。
みんなの時間をそのまま受け止めることができます。

住民参加型ワークショップ

令和7年度ワークショップについて（R7.11～12）

令和7年度に「御幸山公園」を対象に、温泉観光地の玄関口として、来訪者の心をつかむシンボル性の高い空間として整備を行い、イベント開催など魅力ある敷地活用につなげることで、まちなかの集客性や回遊性を高めていくことを目的に、広く住民の皆さまからアイデアを募るワークショップを開催しました。



ワークショップの状況








住民参加型ワークショップ

令和7年度ワークショップについて（主なアイディアやご意見の一例）

1 花・樹木・植栽・景観

・四季を通じて楽しめる花や樹木を植え憩いの空間にする
・冬場にイルミネーションを設置して賑わいを出す
・余分な樹木を伐採し、開けた明るい雰囲気にする
・山全体が木々に覆われていると暗く子どもだけで遊ばせにくい





2 階段・手すり・散策路

・階段勾配を緩やかにしたり、スロープを設置する
・階段の中央や両側に手すりを設置し上り下りしやすいようにする
・高齢者や車いす利用者への配慮をしてほしい
・管理用車両が通れる道路を整備してほしい
・展望台から湯本一小側への散策路の再整備
・予防医療の視点から展望台まで〇mなど園内案内看板を適所設置し散策が楽しくなる仕掛けの整備
・塗装の剥がれなど維持管理も課題なのでメンテナンスしやすい散策路
・全体的な整備は難しいがスポット的な整備に注力する

3 遊具・子どもの遊び場

・ブランコやすべり台などの遊具がほしい
・展望台や景観を活かした遊び場をつくり、子どもで賑わう公園になってほしい



4 休憩スペース・展望台・その他施設

・屋根付きの人が集える休憩所の設置
・展望台の周辺木々を適切に伐採し小名浜の海が見えるようにしてほしい
・飲み物やアイスの自動販売機とごみ箱を置き21世紀の森公園のように一日中遊べる公園にしてほしい

5 トイレ・衛生設備

・トイレの位置や数を改善し、アクセスを良くする
・見通しのよい場所に移動して清潔さを向上させる
・古いトイレは利用しづらいので新たに複数箇所設置してほしい

6 照明・賑わい・イベント

・照明が不足していて暗く怖い
・夜間イベントや提灯祭りを開催し賑わいづくりをする
・清掃や防犯や火事への見回りなどする仕組みづくり
・清掃ボランティア参加者にデジタルスタンプラリー方式でポイントを付与。貯めたポイントは、湯本の宿泊施設や店舗で利用できる仕組みを整える
・招魂碑を交えたイベント
・温泉排水を利用したモニュメントの整備

7 土砂災害・地盤リスク・安全調査

・再整備を機に急傾斜地の安全対策をしっかり実施する
・土砂災害リスクの調査を行う
・不必要な施設設置は控える

整備コンセプト



温泉街〝湯本〟の玄関口であり、季節を感じる植物と眺望が楽しめる公園

安心・安全を基盤に湯本らしい
歴史・自然・景観を活かし、
日常の散策から観光まで、
思い思いに楽しめる公園



整備の基本方針

6つの基本方針

01 安心で魅力ある公園空間



来園者や地域住民が安心・安全に利用でき、ユニバーサルデザインにも配慮した公園を目指す。

02 憩いの空間の創出



湯本駅周辺の街並みを望む眺望性を高めるとともに、来訪者が交流できる憩いの空間を目指す。

03 湯本らしさを表現する景観



湯本の歴史を感じる・際立たせる景観にするとともに、湯本を感じることができる景観を目指す。

04 駅正面に臨むシンボル



湯本のエントランス機能を高め、温泉観光地の玄関口として、来訪者の心をつかむシンボル性の高い空間を目指す。

05 回遊性のある緑地空間



駅前に整備予定である交流拠点施設と連携し、湯本のまちなかの回遊性が高まる空間を目指す。

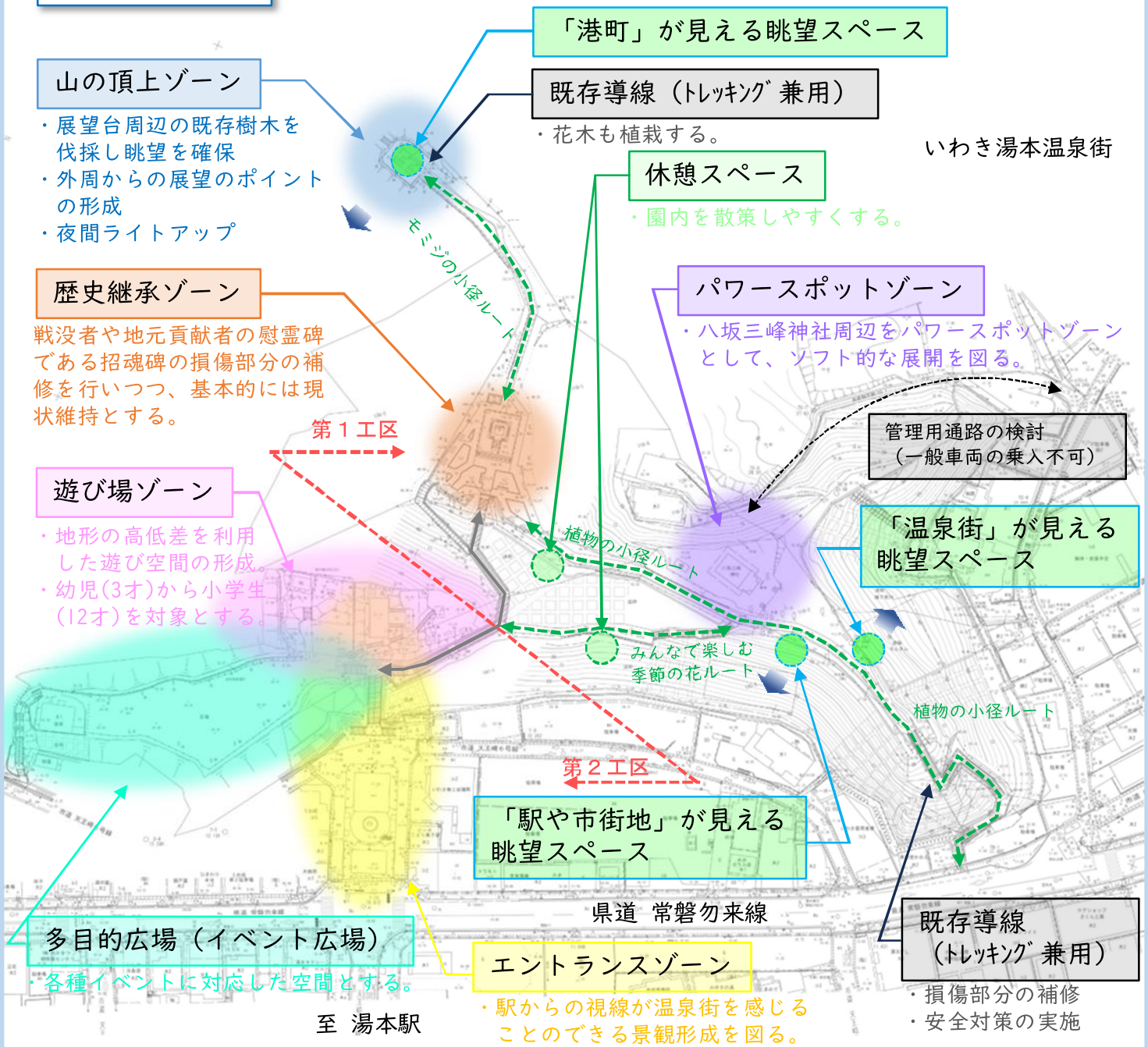
06 市民が主役となれる場所



市民とともに創り、育て、未来へ紡いでいく公園を目指す。

基本計画

ゾーニング図



◆眺望スペースの整備
ベンチ、案内看板を設置し、眺望を楽しむ環境を整備する。

◆植栽・樹木整備
老朽化や樹勢の弱い樹木は、状態をみて伐採・新植を行う。
また、散策ルートに花を植栽し、季節の花を楽しめる計画とする。

◆園路、散策路の整備
導線にあわせて樹木・花木の植栽、ﾗｲﾄｱｯﾌﾟ、照明を整備する。
また、手すりの整備、舗装の修繕などを行う。

◆安全・防災対策
計画内容に応じて、法面・擁壁の再整備や高台に転落防止柵を設置するなど、安全・防災対策を実施する。

◆その他
・園内の適所に各ゾーンへの案内サインを設置する。
・トイレを改修し、使いやすい場所へ設置する。
・維持管理拠点としてのﾊﾞｯｸﾔｰﾄﾞｽﾍﾟｰｽを設置する。

主要箇所の整備イメージ

エントランスゾーン（大階段）





眺望・休憩スペース





植物の小径ルート





このページに示すイラストは、基本計画・ビジョンブック・御幸山公園ワークショップの結果を参考に、整備イメージを作成したものであり、整備内容を確定するものではありません。

整備後の維持管理･運営の検討

地域住民や公園利用者が、公園の管理に参加できる仕組みづくりを行います。

木や花の手入れ、清掃などの公園管理ボランティアをはじめ、イベントや美化活動、園内の見守りなど、さまざまな形で公園に関わる機会を創出します。

また、活動に必要な情報や道具の提供、活動のＰＲなど、地域の方々が無理なく継続して参加できる環境を整えます。

こうした活動を通して、公園を身近に感じ、愛着を持って関わる「公園ファン」を増やし、地域の皆様ともに公園を育て、将来にわたって魅力を維持・向上できる仕組みづくりを検討していきます。





取組みの方向性

多世代の参画

地域住民、来訪者、学校、市民活動団体など、誰でも参加できる仕組みをつくり、みんなで公園を管理する体制を整える。



安全・安心・快適な公園環境の維持

定期的な点検や清掃を行い、安全・安心・快適な状態を維持する。

長く愛される公園づくり

地域の誇りとなる公園として、世代を超えて愛される公園となることを目指す。





想定される活動例

花や木の植栽



清掃活動
草刈り等



地域イベント



情報発信活動
（SNS・広報等）



スケジュール

事業スケジュール

事業の進捗により変更となる場合があります。



公園概要

事　業　名　称	御幸山公園・湯本駅前緑地整備事業
事　業　年　度	令和７年度～令和１２年度（予定）
公　園　名　称	御幸山公園、湯本駅前緑地
公　園　種　別	風致公園　ほか
公　園　面　積	約10.0ha（うち本事業整備面積：約0.8ha）

御幸山公園・湯本駅前緑地整備基本計画

令和８年１１月　発行

発　行　　いわき市都市建設部 公園緑地課
住　所　　〒970-8686
　　福島県いわき市平字梅本21
電　話　　0246-22-7518
ＦＡＸ　　0246-22-7568
メール　　koenryokuchi@city.iwaki.lg.jp

